

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

| | | | |
|--|--|------------|-------------------------------------|
| 事業名 | 早期離職者・フリーターを対象とする「日本版デュアルシステム」を活用した、『若者再チャレンジ支援』の総合的実践的プログラム | | |
| 法人名 | 学校法人新潟総合学院 | | |
| 学校名 | 国際アート&デザイン専門学校 | | |
| 代表者 | 理事長 池田 弘 | 担当者 連絡先 | 生涯学習センター室長 金内 正 TEL 024-941-0117 |
| 1. 事業の概要 | | | |
| <事業の主題> | | | |
| 早期離職やフリーターになっている若者が、真に希望する職種や分野への再就職ができるよう支援する。 | | | |
| 2. <事業の総括> | | | |
| <p>本事業は、新卒就職者で早期に離職した若者とそこから移行したフリーター等を対象に、個々人の希望に応じ学習講座を開講し専門的スキルを習得させ、再就職の技能的スキルアップを図った。</p> <p>一方、就職準備講座(セミナー)を開講し、自己分析・興味経験の棚卸し・応募書類の作成・面接ロールプレイ等を実施し、就職活動のメンタル的なスキルアップを図った。(キャリアカウンセリングを並行的に実施)</p> <p>合わせて、希望の業種・分野で企業実習を実施し業界の現場体験を実践することにより、個々人に職業的適性を判断させ、就職活動の貴重な適性診断情報を得る機械を提供した。(「日本版デュアルシステム」の実践)</p> <p>受講対象者の内7名(39%)に「精神疾患者」の疑いが出てきたため、精神科医、精神保健福祉士へのリファールを実施。精神科医を講師に招き、7名の対応について勉強会を実施しながら事業終了時まで支援を継続した。</p> <p>また、若者の再チャレンジを支援するための啓蒙・普及活動として、次の講演会等を実施した。</p> <p>①〔若者の支援者を支えている人々〕を対象に講演会を開催。(「若者の未来」をテーマに大学教授が講演)</p> <p>②〔若者の受け皿となる企業〕を対象に講演会と企業アンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会＝「人材育成コーチング術」をテーマに講演(コーチングの第一人者が講演) ・アンケート調査＝「人材育成の取り組み」、「企業実習(インターンシップ)受入れ実績」について実施(2,670社) | | | |
| (1)新卒「早期離職者」、「フリーター」等の公募 | | | |
| 応募申込者23名、最終登録(入校)者18名対象に事業開始。 | | | |
| (2)登録者受入時キャリアカウンセリングの実施 | | | |
| メンタルケア、個々の経歴確認(申込申請書より)、本人の希望職種、希望学習講座の確認 | | | |
| (3)厚生労働省委託事業『若者自立塾』の自立支援現場を視察、若者支援に関する課題・注意点等を調査。 | | | |
| 宿泊訓練施設や入塾者の宿泊訓練を見学、自立支援の事例講和を聞きプログラム策定に役立てる。 | | | |
| (4)短期学習講座の実施(専門・技術職スキルの習得) | | | |
| 開講講座の内容 | | | |
| ①〔PC講座〕 | 基礎コース | } | ※①と②の講座はいずれか1コースを必須受講として開講した。 |
| | 中級コース | | |
| ②〔医療事務講座〕 | 医療事務検定受験コース | } | ※③の各コースは希望選択受講として開講した。 |
| ③デザイン系の技能 習得講座 | フォトショップ&デジタルフォトコース | | |
| | イラストレーション入門コース | | |
| | イラストレータDTPコース | | |
| | Webデザイン基本コース | | |
| Webデザイン中級コース | | | |

(5)「精神科医師」による【精神患者に対するキャリアカウンセリング勉強会】の開催。(計画外の追加実施)

受講者の中に「精神疾患」と思われる言動が見られたため、精神科医等の勉強会等を開催しカウンセリングを慎重に進める施策をとった。それらの受講生に対しては、「精神科医」等と連携し事業終了時まで支援を継続した。

(6)「就職準備講座」(セミナー)の実施

＜講座内容とステップ＞

| | | |
|--------------------|--------------|-----------------|
| ①自己PR(分析)シート 1. 2 | ④企業研究シート | ⑦ビジネスマナー |
| ②キャリアマトリックス適職診断表3枚 | ⑤志望動機シート1. 2 | ⑧「模擬面接」エントリーシート |
| ③職務経歴書(自己PR書)の作成 | ⑥履歴書の作成 | ⑨模擬面接ロールプレイ |

※⑨「模擬面接ロールプレイ」は、合格ラインに達するまで繰り返し実施。

(7)企業実習(インターンシップ)の実施

＜企業実習状況＞

| 実習体験内容 | 実習先 | 実習参加者数 |
|--|-------------------|--------|
| ①OA事務体験 ②イラストレータ・フォトショップ活用体験 ③印刷業務体験 ④ルート営業体験 ⑤広告代理店業務体験 ⑥配達業務体験 | 印刷会社、広告会社2社(郡山市内) | 11名 |
| ①医療事務体験 ②受付対応体験(患者) ③薬局補助業務体験 | 調剤薬局2社(郡山市内) | 3名 |
| ①司会業体験 ②TV番組収録体験 ③ヴォイストレーニング体験 ④キャンパインクルーのマナー研修体験 | 司会業1社(郡山市内) | 1名 |

(8)「就職決定」の実績

①就職決定者数 6名(登録者全体に対し33.3%)

②就職決定先状況

・医療事務職 2名(女性) ・OA事務職3名(女性) ・製造職1名(男性) 計6名

③会社受験継続者 男性3名、女性3名 計6名受験中

(9)就職決定後の職場定着カウンセリングの実施(個別訪問対応)

就職決定者6名を対象に、1週間に2回～2,3週間に1回カウンセリングを実施。(個人で差異あり。現在も継続中)

(10)啓蒙普及活動

①若者の自立支援講演会の開催

＜対象＞保護者・教育関係者等 ＜テーマ＞「若者が見るべき未来」 ＜講師＞尾木直樹教授

②人材育成コーチングセミナーの開催

＜対象＞企業の経営者・管理者 ＜テーマ＞「新人・若手社員をやる気にさせるコーチング術」 ＜講師＞桜井一紀氏

③企業実習受入れに関するアンケート調査

＜対象＞福島県内一円の企業 2,670社 ＜内容＞「社員の人材育成の現状と企業実習の受入について」

2. 事業の評価に関する項目

〔1〕目的・重点事項の達成状況

(1) 事業の趣旨・目的

早期離職やフリーターの若者を対象に、真に希望する職種や分野への再就職ができるよう支援する。

再就職支援のプログラムは、「日本版デュアルシステム」を活用した再就職支援で、具体的には

①適性に応じた学習講座で専門的スキル習得、②企業実習で職業体験、③キャリアカウンセリングの実施
事業計画当初の事業成果目標は、受講者の80%の再就職を目指すものであった。

(2) その達成状況

①〔募集実績〕 計画30名定員に対し、応募者23名(76.7%)、入校受入者18名(60%)で事業を開始した。

②〔再就職支援実績〕

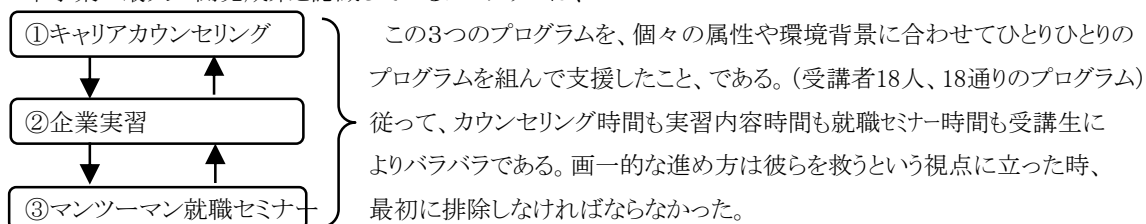
| | | | | | |
|--|-----|----------|----------|--------------------|---------|
| | 対象者 | 【A】就職決定者 | 【B】就職活動中 | 【C】就労活動実績(【A】+【B】) | 就労活動実績率 |
|--|-----|----------|----------|--------------------|---------|

| | | | | | | | |
|--|----------------|---------------------|-----|-------|-------|-----------|--------|
| 受講者の属性 | 離職直後または入退院治療直後 | | 5人 | 2人 | 3人 | 5人 | 100.0% |
| | フリーター (8名) | 下記以外(注1) | 6人 | 2人 | 3人 | 5人 | 83.3% |
| | | 精神疾患該当者(精神科医分析) | 2人 | 2人 | 0人 | 2人 | 100.0% |
| | ニート状態 (5名) | 精神疾患該当者(精神科医分析)(注2) | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0.0% |
| ※経緯状況=(注1)最長6年6ヶ月フリーター状態(注2)最長9年6ヶ月間無業状態 | | | 18人 | 6人 | 6人 | 12人 | 66.7% |
| (決定率、活動率) | | | | 33.3% | 33.3% | ※【C】÷対象者数 | |

〔2〕事業により得られた成果

(1) 開発した教育プログラム

本事業の最大の開発成果と認識しているプログラムは、



※この3つのプログラムを並行して実施し支援して行ったことは、一番の成功事例だと考えている。

<プログラムの成果>

上記3つのプログラムを並行して実行し、彼らを支援して行く中で、

- ・「始めは自分と向き合うのがいやだったが、向き合わないと前には進まない、と分かった」
- ・「実習体験をしてみて、こんなに親切な人ばかりの会社があるんだ、と勇気が沸いた」
- ・「いろいろ仕事体験させてもらって、1つの職種にこだわっていた自分が間違っていたと分かった、もっといろいろな職種まで拡大して就職活動しようと思う。他の仕事も自分にできそうな気がした」
- ・「自己分析などをしていると、改めて自分の人生を見つめ直すいい機会ができた」
- ・「誰かに後ろから押ししてもらわないと前に進めない自分がいた。前に進めそうな力を頂いたような気がする」という感想を聞くことができた。

勿論、最大の客観的成果は【就職決定】であるが、彼らに少しでも[自分で前進する力]を与えられたことは最も誇れる成果であると確信している。

本事業で就職が決定した数人の受講生が、次のようなメッセージを残してくれた。

『来年、もし同じ事業があつて後輩受講生ができたなら、是非呼んで欲しい。

ここで頑張って就職できた今の気持ちを、後輩に伝えたい、そしてエールを送りたい』と。

(平成20年3月13日「卒業式」に)

この他の開発プログラムは、次の通り

④適性に応じた学習講座で専門的技能習得プログラム

・[PCスキル習得プログラム] ・[医療事務スキル習得プログラム] ・[デザイン系技能習得プログラム]

⑤就職セミナー(就職準備講座)プログラム

本事業の「オリジナルテキスト」を開発し、全9段階のステップで就職活動のスキルアップを図った。

本セミナーはマンツーマンの指導・サポート体制を組み、常に「キャリアカウンセラー」4～5名体制で臨んだ。

⑥専門の「精神科医」と連携したキャリアカウンセリング(プログラム)の実施

本事業の受講者の約40%が「精神疾患」の疑いがあるという状況の中で、しかし、基本的姿勢として全受講生を最後まで支援を継続することとした。そのため、完全に領域を超える受講者の対応には専門家「精神科医」と「精神保健福祉士」との連携が容疑なくされたが、事業最後まで実行した。

この専門家との連携は、われわれキャリアカウンセラーにとっても大変貴重な経験・研鑽の機会となった。

(2) 行政機関等の評価

この「若者再チャレンジ支援」事業を通じて、地元「郡山市」や「県」に対して『“就労まで結び付けた”若者支援事業』として、一定の評価を頂くことができた。

福島県は、新規学卒者の就職決定には関心も高く、その支援策は積極的に予算を掛けて取り組んでいるが、その就職の後の「早期離職者」が全国平均を毎年上回っている現状や、その「早期離職者」への対策はあまり見えてこなかった。また、若者自立支援事業への取り組みに対しても、「自立支援の相談」に止まりその先の就労支援まで踏み込んだ取り組みは見られない。

今回この事業を通して、「就労まで支援する事業」の意義やその重要性について理解をして頂く、良い機会を提供できたと考えている。

現在、このような若者の自立支援について、地元の行政からも協力や支援に向けた動きが出始めている。

[3] 今後の活用

(1) 教育プログラムの今後の活用について

①【キャリアカウンセリング・企業実習・マンツーマン就職セミナーを並行実施するプログラム】は、特に『就労支援』を目的とする事業には有効であり、就労経験のない若者は勿論、「就労経験のある」若者でもその効果が期待できるものである。今後は、県内の若者支援を行っている団体やNPO法人等へ積極的に情報提供を行い、単に自立支援に止まらず「就労支援」まで一歩踏み出した支援が活発化するように関わって行きたい。

以下の3つのプログラムは、福島県内の「若者自立支援」に取り組んでいるNPO団体をはじめ、専修学校、大学、その他の公的団体等への普及を進めて行く。

②【適性に応じた学習講座で専門的技能習得プログラム】

③【就職セミナー(就職準備講座)プログラム】

④【専門の「精神科医」と連携したキャリアカウンセリングプログラム】

} 特に「フリーター」を対象に自立支援をしている団体への提供。

——— 特に「ニート」を中心に自立支援をしている団体への提供。

(2) テキスト等の今後の活用について

若年者を対象とする『就労支援』を目的とする事業を実施する場合の教材としては、大変有効な内容であると考えているので、「文部科学省」の同種の委託事業を実施する場合、また本学院内で独自に「若者就労支援」の取り組みを実施する際に活用して行きたい。また、本事業に今回参画頂いた、専修学校、大学に向け、活用のための啓蒙を進めて行きたい。

[4] 次年度以降における課題・展開

(1) 今後の活用に向けた課題、改善点

本事業を実施した結果として今後同種の事業を展開するにあたり、課題・改善点は次の通りである。

①【募集方法・広報内容の改善】

若者や若年者の就職や自立支援事業の募集に関しては、その募集対象が「フリーター」か「ニート」か「正規就職経験のある若者」かを明確に分かる内容で募集することが一番のポイントである。

また同時に、受講生受入れには全員の面接を実施するのは勿論だが、「キャリアカウンセラー」等の専門家による面接が必要である。本事業では、これらの2点の課題と改善点が反省として浮き彫りになった。

②〔支援プログラムの改善と工夫〕

本事業のプログラムは「学習講座」を先行して実施したが、「企業実習」を「学習講座」期間に組み入れ、同時並行型の「デュアルシステム」として実施する方が、職業理解や専門的スキルの習得にはより効果的である。但し、実習受入れ先企業との日程調整が課題になると予想される。

③〔保護者・家族向けセミナー、面談会の実施(保護者の協力要請)〕

本事業のように、雇用保険給付の対象にならない若者の支援については、学習、セミナーや企業実習に参加するための時間と交通費の出費が障害になるケースが少なくない。アルバイト収入で生活している若者が多く、「時間が都合つかない」、「交通費がかかるので極力登校回数を少なくして欲しい」など、経済的に深刻な状況が現実問題として発生する。しかし、この問題をクリアできないと「就労支援」は相当困難となるので、保護者や家族の支援や協力を事前に仰ぐ機会を設けること。これは本事業としても改善点である。

④〔実習受入れ先企業の開拓と啓蒙〕

本事業のように、「フリーター」や「早期離職者」を対象にする企業実習の場合は、多くの企業では敬遠する傾向がある。通常の本科生の実習受入れ実績がある企業でも、本事業の受講生は受入を拒否される企業は少なくない。「企業アンケート」の結果でも明らかになったが、福島県内の企業では受講生の受入れをしてもらえる企業は限られる。従って、「企業実習」や「インターンシップ」に実績のある団体等との協力を得るなど、受入れ先企業の開拓とその理解をして頂く啓蒙をしっかり進める必要がある。

(2) 今後の事業展開

①〔平成20年度:若者支援関連事業の実施〕

福島県、福島労働局や地元郡山市などから、「若者の自立支援」に関する事業を積極的に受託、もしくは連携を推進して行き、今般培った「若者再チャレンジ」支援のノウハウやネットワークを有効活用し、地域や福島県内を発信地として、若者の人材支援や人材育成の普及・啓蒙活動を推進して行きたい。

②〔行政等を巻き込んだ事業の展開と充実〕

①の事業の推進については、地元郡山市や専門的に活動しているNPO団体との協働事業などができるよう働きかけ、行政等を巻き込んで、一般市民から企業へと波及するような仕組みを構築したい。

③〔他の専修学校・大学への普及活動〕

とかく教育機関にあっては、卒業後の学生に対する関心は薄れがちであるが、毎年2,000名を越える新卒者が、1年もしないで離職していること。そしてかなりの確立で「フリーター」や「ニート」へ移行する可能性があることさらには、我慢して就労していると「精神疾患患者」になる若者が現実にいること。これらのことを、同じ教育機関に関わる者として現状を理解して頂くこと、そして連携協力して行くべき事を積極的に発信して行きたい。

3. 事業の実施に関する項目

(1) ニーズ調査等

①若者の自立支援講演会の開催

＜平成19年12月7日開催＞

＜目的＞若者の支援者を支えている人々に向け、若者支援の普及啓蒙として開催

＜場所＞郡山市「市民交流プラザ」＜対象参加者＞保護者・教育関係者等 159名

＜講演テーマ＞「若者が見るべき未来」＜講師＞尾木直樹教授＜参加者の反応＞大変有益だった 91.1%

②人材育成コーチングセミナーの開催

＜平成20年2月23日開催＞

＜目的＞若者の受け皿となる企業に向け、若者の人材育成の普及啓蒙として開催

＜場所＞「郡山市労働福祉会館」＜対象参加者＞企業の経営者・管理者等 270名

＜講演テーマ＞「新人・若手社員をやる気にさせるコーチング術」＜講師＞桜井一紀氏

＜参加者の反応＞ 大変有益だった 92.8%

③人材育成、企業実習に関するアンケート調査

＜平成20年1月～2月実施＞

＜目的＞若者の受け皿となる企業に向け、人材育成と企業実習の実態調査として実施

＜対象＞福島県内一円の企業 2,670社＜内容＞「社員の人材育成の現状と企業実習の受入について」

＜結果＞回答数 47社(1.77%)＜内容＞人材育成関心は比較的高いが「デュアルシステム」の認知の低さが見えた

(2) カリキュラムの開発

①専門・技術職スキルの習得するための「短期学習講座」のカリキュラム開発

PC講座、医療事務講座、デザイン系の技能習得講座のそれぞれのカリキュラムを、本事業のスケジュールに合わせて開発した。カリキュラムは、学習講座の実施協力を頂いた企業と連携して開発した。

②「精神科医師」等と連携したキャリアカウンセリング

本事業を進める中で、「精神疾患」の疑いがある受講生の存在が見え、必然的に「精神科医」や「精神保健福祉士」等からの指導や助言が余儀なくされ、カウンセリング内容や手法も個々の状態に応じて構築した。

③フリーター、就職経験のある若者向け「就職セミナー」のカリキュラム開発

就職活動のスキルアップを図るために、フリーター、就職経験のある若者を対象とした「就職セミナー」用のカリキュラムを開発した。9段階のステップで進めて行く内容で、最後に面接試験ロールプレイで終了する。そのための指導テキストを、担当キャリアカウンセラー達によって開発した。

④企業実習（インターンシップ）

受講者ひとりひとりの希望や属性に差異があったため、企業に協力頂きながら複数の実習メニューを組んだ。受講生状況に応じた実習メニューを組むに当たっては、企業側に相当の負担をようするため、以前より本学院に対して、理解と協力を頂いてる企業数社に限定される結果となった。

(3) 実証講座

①短期学習講座の実施（専門・技術職スキルの習得）

＜各講座別受講者数＞

＜実施期間：平成19年10月23日～11月29日＞

| 開講講座名 | | 講座時間数 | 延べ受講者数 | 開講時間帯 |
|---------------|--------------------|-------|--------|---------------------------|
| ①〔PC講座〕 | 基礎コース | 63 | 7人 | 平日の終日（基礎と中級はいずれかを必須受講） |
| | 中級コース | 93 | 11人 | |
| ②〔医療事務講座〕 | 医療事務検定受験コース | 77 | 5人 | 平日の終日（希望選択制の受講） |
| ③デザイン系の技能習得講座 | フォトショップ&デジタルフォトコース | 12 | 6人 | 平日の夜間開講（希望選択制、複数受講を可能とした） |
| | イラストレーション入門コース | 12 | 7人 | |
| | イラストレーターDTPコース | 12 | 7人 | |
| | Webデザイン基本コース | 12 | 7人 | |
| | Webデザイン中級コース | 12 | 6人 | |
| | | 293 | 56人 | |

②「就職準備講座」(セミナー)の実施

<講座内容とステップ>

○実施期間:平成19年11月～12月13日

○内 容:「自己分析」～「模擬面接ロールプレイ」まで(面接ロールプレイは合格ラインに達するまで繰り返し)

○実施時間数: 標準62時間(受講生個々では時間数に差異が発生しています)

③「企業実習(インターンシップ)」の実施

○実施期間:平成19年12月4日～平成20年3月9日の期間で、3日間～15日間実施

○実施企業:郡山市内で合計5社で実施

○参加者数:実参加者数 11名(受講者の個々の状況を鑑み参加者を11名に絞った)

④受講者の感想・声

①の「短期学習講座」の受講は、新たなことを吸収できて“楽しい”と、モチベーションも高かった。

②の「就職準備講座」(セミナー)は、“自分自身と向き合う辛さ”から「できれば参加したくない」という気持ちが強かった、とモチベーションも出席率も徐々に下がった。セミナーの進捗は完全に個人差が出ていった。

③の「企業実習」(インターンシップ)は、参加前は不安が多かったようだが、実習先の人々の親切な対応や丁寧な実習のご指導により、仕事への不安や人間関係の不安も徐々に解消し、「できそうだ」、「楽しい」、「向いていないと思っていたけどできるかも」など、新たな発見があり、その後の就職活動が変わって行った。

(4)その他

①若者支援を通して見えてきたもの

本事業では、不特定の「フリーター、早期離職者」の募集に始まった事業であったが、登録者・受講者の約4割が何らかの「精神疾患」を抱えているという現実があった。そしてそのほとんどの者が、就職先の企業内での人間関係や仕事によって職場を離れることとなり、自信を喪失し、立ち上がれない若者であった。さらに残念なことに、自分が「病気」であるということを実感している者が少なく、自分ひとりで悩んで、それが自分の欠点であるかのように思い込んでいる者もいた。

私たちキャリアカウンセラーの立場からは、これらの若者に対し「一度専門医の診察を受けては？」と勧めるのが、一番の難関であった。(私たちの立場としては、現実的に安易にその言葉は発することができない)

②「精神科医師」による【精神疾患に対するキャリアカウンセリング勉強会】の開催。(計画外の実施)

受講者の中に「精神疾患」と思われる言動が見られたため、精神科医等の勉強会等を開催しカウンセリングを慎重に進める施策をとった。そして「精神科医」等と連携し事業終了時まで支援を継続した。

これは、今後若者支援を進めて行くにあたり、私たちキャリアカウンセラーにとって大変よい研鑽の機会を得ることができたと考えている。今後、同じような支援者を迎える可能性が十分あるから。

③「キャリアカウンセリング」、「企業実習」、「就職セミナー」のマンツーマンプログラム

この3つのプログラムを、個々の属性や環境背景に合わせてひとりひとりのプログラムを組んで支援した。カウンセリング時間、実習内容や時間、就職セミナー時間も受講生により個々に設定する必要があった。

彼らの属性やここに至る経緯を考えると、画一的な進め方は彼らを救おうという観点に立った時に、まず最初に排除しなければ、支援にならなかったからである。

この3つのプログラムを並行して支援したことは、一番の成功事例だと考えている。

勿論、最大の客観的成果は【就職決定】であるが、彼らに少しでも[自分で前進する力]を与えられたことは最も誇れる成果であると確信している。